

Nurses' understanding of their roles within diabetes team-based care : Analysis based on perception by nurses with proficient experience

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/29772

看護師がとらえる糖尿病チーム医療における役割 — 経験豊富な看護師の認識から —

多崎 恵子 稲垣 美智子 松井 希代子 村角 直子

要 旨

本研究の目的は、糖尿病チーム医療における看護師の役割をモデルとなりうる経験豊富な看護師の認識から明らかにすることである。糖尿病チーム医療を積極的に行っている4施設7名の経験豊富な看護師を対象にフォーカスグループインタビューを行い質的に分析した。その結果、7つの役割：《患者の生命と生活の質を守ることを認め合い専門性を発揮する》、《患者の生活の中の迷いや声をききとり生活の実像を意味づけして示す》、《患者の代弁者であることを示す》、《看護師の仕事に自信を持ち形あるものにして示す》、《専門職として他職種を尊重していることを基盤とした信頼関係を築く》、《患者目線に立つチーム作りに意図的に取り組む》、《他職種の力を信頼し委ねる》が導き出された。これら7つの役割は、チーム医療における看護師の心がまえといえ、チームにおいて看護師が意図的にこれらを最大限に発揮することが、理想的な糖尿病チーム医療の推進につながる可能性が示唆された。

Key words

diabetes team-based care, the roles of nursing, focus-group interviews
nurses with proficient experience, nurses' understanding

はじめに

近年、医療の質や安全性の向上及び高度化・複雑化に伴う業務の増大に対応するため、チーム医療の推進が注目されている。厚生労働省でも、看護職を含めた医療専門職を委員とする「チーム医療の推進に関する検討会」にて検討がなされてきた。その結果、診療・治療等に関連する業務から患者の療養生活の支援に至るまで幅広い業務を担い得ることから、チーム医療のキーパーソンとして期待される看護職の役割拡大や裁量権の向上を目指す方向性が示された¹⁾。急性期や在宅における医師を補う役割が看護師に求められていると考えられる。

それでは慢性疾患である糖尿病ケアの領域においてはどうか。糖尿病医療において、治療を継続するうえで最も重要とされるのは日常における食事・運動などの療養行動である。この療養行動にかかわる日々の生活に密着したケアは看護師が裁量できる範囲が多い。したがって、糖尿病をもちながら生活する患者の療養生活を長期にわたり支援して

いく看護師の役割は患者中心の医療チームにおいて重要な位置づけにある。一方、チームはひとつの組織であり、その風土はメンバーの意識と行動によって醸成される。そこで、医療チームという組織において、患者の立場から発信できる看護師が明確な役割意識をもって実践することは患者中心の医療を推進するうえで重要である。

細田²⁾は社会学の立場で、医療従事者の認識と実践からチーム医療の4つの要素、「専門性志向」、「患者志向」、「職種構成志向」、「協働志向」を抽出した。これらすべてが充足することが理想型であるが、併存することは難しく、すべての要素が充足しない場合に困難感を持つという。チーム医療が唱えられながらも医師が指令する構造となっているチーム医療が多い現実、効果的なチームワークを可能とするために、異なる知識と情報をもつ職種同士が、専門性が反映された考えを討議しあう重要性について述べている。

一方、チーム医療における看護の役割については、

対象者の安全を守る（不利益阻止、権利擁護）ための調整、他職種が活用できるよう対象者の心身の状況の情報を提供、チームワークへの貢献等が一般的には示されている³⁾。糖尿病療養指導において看護師が実施する内容については、概説や療養指導項目として示されている⁴⁾⁵⁾のみである。実態⁶⁾では、看護師の多忙さや能力不足からチームとしてうまく機能していないと看護師がとらえておりジレンマを感じている報告がある。また看護師が先輩をロールモデリングしている内容として、チーム育成能力が挙げられており、そのひとつに医療チーム調整力が含まれていた⁷⁾。さらに、チームにおいて自らがチームケアシステムづくりを実践し、そのプロセスを看護師の調整行為として構造化した報告⁸⁾がある。一方、看護師が患者アセスメントの主体となり有効に機能している糖尿病チーム実践の報告においては、その評価として、医療職者は「連携」「相互理解」、中でも「患者や家族の力量への信頼が増した」ことを、対象者は「みんなに支えられている責任」を挙げていた⁹⁾。また医師による評価では、看護師の役割について、「看護師がその専門性を発揮して療養指導アセスメントを行うことで『患者をどう理解し、どう対応すべきか』をチームとして知ることができる」との報告¹⁰⁾がある。以上より、看護師は糖尿病チーム医療の重要性を認識し努力していることや、熟練した看護師が行っているチーム実践の効果については報告されている。しかし、モデルとなりうる経験豊富な看護師がどのような認識で医療チームにおける看護師としての役割を果たそうとしているのかを明らかにした研究はみられない。

そこで、本研究の目的は、糖尿病チーム医療看護における看護師の役割を経験豊富な看護師の認識から明らかにすることである。このことが明らかになれば、よりよい糖尿病チーム医療を看護師が意図的にすすめていくためのよりどころとなると考えられる。

方 法

1. 研究デザイン：質的記述的研究

2. 研究対象

対象は、他職種との糖尿病チーム医療を積極的に行っている経験豊富な看護師とし、看護責任者の許可を得、研究趣旨を説明し同意の得られた4施設7名とした。これらの看護師は全員が日本糖尿病療養指導士（CDEJ：Certified Diabetes Educator of Japan）資格を有し、糖尿病看護経験年数が5年以上

であった。うち2名は糖尿病看護認定看護師（CN：Certified Nurse for Diabetes Nursing）資格を有していた。性別は全員が女性で、年齢は40歳代4名、50歳代3名、所属および職務内容は、大学病院の看護師2名、地域の中核病院の看護師2名、大学教員（実践・研究に携わっている）3名であった。

3. データ収集方法

1) フォーカスグループインタビュー

1グループにつき2～3名のフォーカスグループインタビューを行った。フォーカスグループインタビューとは、一般的には6名～10名で実施するとされている。しかし、2名での面接においても1対1の面接では得られない相互作用が発動し豊富な内容が語られると考え、本研究では便宜上この名称を用いることとした。全員のインタビューには3回を必要とした。1回のインタビューに要した時間は60～90分であった。インタビュー内容は許可を得てICレコーダーに録音し逐語録に起こした。以下の項目について質問し自由に語ってもらった。

- ①理想的な糖尿病チーム医療とは
- ②理想的な糖尿病チーム医療を行うための看護師としての心構えとは
- ③理想的な糖尿病チーム医療を行うためにとっている看護の役割とは
- ④理想的な糖尿病チーム医療を行うために、今後看護師に必要なこととは

2) 糖尿病教育スタイル自己評価

自記式質問紙（20項目の糖尿病教育スタイル自己評価ツール）を用いて看護師の糖尿病教育スタイル¹¹⁾の特徴を、「生活心情がみえているスタイル」と「一般的知識を提供するスタイル」の2つに判別した。この質問紙は教育スタイル自己評価得点によって識別できる信頼性・妥当性が検証されたツールである¹²⁾。点数は0点以上であれば「生活心情がみえているスタイル」となり、その点数は高いほどよい。「生活心情がみえているスタイル」とは、糖尿病をもちながら生活する患者が考えたり感じたりしているであろうと看護師が感じ取り、それに添ってはたらかけた結果、患者の意識や行動が変化する教育スタイルのことである。一方、「一般的知識を提供するスタイル」とは、患者の生活に添わない、一般的な知識に重きを置いた看護師主導の教育スタイルのことである。

4. データ分析方法

1) インタビュー内容

質的帰納的に分析を行った。逐語録を繰り返し読

み込み、分析テーマに沿ってデータの意味を解釈しコード化した。そして類似したコードをまとめサブカテゴリーへ、さらにカテゴリーへと抽象化を進めた。分析に偏りが生じないように、質的研究の経験が豊富な共同研究者とディスカッションを繰り返し、真実性の確保に留意した。

2) 糖尿病教育スタイル自己評価得点

得点を算出し、基準に則っていずれかのスタイルに判別した。

5. 倫理的配慮

本研究は金沢大学医学倫理委員会の承認を受け実施した(2009年11月25日;番号235)。看護師には研究主旨を説明し、研究参加の自由、いつでも参加をとりやめることが可能であること、個人が特定されない配慮、本研究以外にデータを使用しないこと、研究終了後データは速やかに破棄すること、論文にて公表すること等の説明を行った。参加者はグループインタビューであることを承知したうえでの研究参加同意書の記入をもって本研究への同意とした。

結 果

1. 看護師が認識するチーム医療における役割の内容

1) 概要

糖尿病チーム医療における看護師の役割として7カテゴリーが導き出された。7カテゴリーとは、《患者の生命と生活の質を守ることを認め合い専門性を発揮する》、《患者の生活の中の迷いや声をききとり生活の実像を意味づけして示す》、《患者の代弁者であることを示す》、《看護師の仕事に自信を持ち形あるものにして示す》、《専門職として他職種を尊重していることを基盤とした信頼関係を築く》、《患者目線に立つチーム作りに意図的に取り組む》、《他職種の力を信頼し委ねる》であった。これら7カテゴリーおよび20サブカテゴリーと事例を表1に示した。

2) カテゴリーの説明

(1) 《患者の生命と生活の質を守ることを認め合い専門性を発揮する》

看護師は、医療チームにおいて他専門職とともに、互いに患者の生命と生活を大切にケアするという目標を共有し、同等に連携し、看護師として最大限の力を発揮したいと考えていた。《患者の生命の質と生活の質をバランスよく共有する》、《互いに目標を共有する》、《メンバーがそれぞれ最大限の力を

発揮する》、《メンバーが連携して取り組む意識を持つ》、《互いに同等のチームメンバーとして認め合う》の5つのサブカテゴリーから構成された。

(2) 《患者の生活の中の迷いや声をききとり生活の実像を意味づけして示す》

看護師は、患者が糖尿病をもちながら生活するとはどのようなことかを思い描き、患者が表現しきれない揺らぎや迷いをキャッチし、他職種にはみえにくい糖尿病をもちながら生活するその人の実像をできるだけ伝えようと考えていた。《糖尿病をもちながら生活する患者の生活をありありと描ける》、《患者の揺らぎや右往左往にとことん付き合える》、《患者の表現できない叫びを拾い上げ道筋を立てていく》の3つのサブカテゴリーから構成された。

(3) 《患者の代弁者であることを示す》

看護師は、他職種の中では看護師である自分が最も患者の声を聴くことができると自負し、糖尿病をもちながら生活する患者の思いや考えを患者になりかわり他職種に代弁する役割であることを示そうと考えていた。《糖尿病をもちながら生活する患者の考え方や生き方を他職種に発信できる》、《勇気を持って患者を代弁できる》の2つのサブカテゴリーから構成された。

(4) 《看護師の仕事に自信を持ち形あるものにして示す》

看護師は、その仕事に自信を持つとともに、他職種に看護師としての考えを分かりやすく的確に伝え、そのケアが患者を変えたことを論理的に他職種に示したいと考えていた。《他職種に的確に伝達するスキルを持つ》、《看護のはたらきにより患者が変化したことを他職種に伝える》の2つのサブカテゴリーから構成された。

(5) 《専門職として他職種を尊重していることを基盤とした信頼関係を築く》

看護師は、同等のチームメンバーとして他職種を尊重し、偏らないよう、対立しないよう意識しながら、信頼関係を築こうと努力していた。《他職種に信頼関係を培うことを意図した行動をとる》、《潤滑油としてチームのバランスを保つ》、《他職種と意見が対立したとき譲り合いの線が引ける》の3つのサブカテゴリーから構成された。

(6) 《患者目線に立つチーム作りに意図的に取り組む》

看護師は、糖尿病をもちながら生活する患者を決して置き去りにしない医療を実現しようと、患者の喜ばしい変化をアピールし、意図的な患者目線に

表 1. 看護師がとらえる糖尿病チーム医療における 7 つの役割

カテゴリー	サブカテゴリー	事例
患者の生命と生活の質を守ることを認め合い専門性を発揮する	患者の生命の質と生活の質をバランスよく共有する	<ul style="list-style-type: none"> 私はつい甘くなるから、生活の質の方を考えるけど、医者は生命の質を考えるしと思って。(医師は) 命っていうことを考えている存在ではあってほしいよね、見張ってほしいよね、ナースの行きすぎを 治療が生活していく中でやっていけるかをアセスメントするのがナース
	互いに目標を共有する	<ul style="list-style-type: none"> 患者さん自体も分らんことでしょう、身体が大事か生き方が大事かっていうあたりが分らんから、そのあたりのことを何か共有できていたりするっていうチームが本当にいいんやろね
	メンバーがそれぞれ最大限の力を発揮する	<ul style="list-style-type: none"> このチームは、だって同じチームだから、いろいろチーム医療に関して語ってきているし、チーム医療ってこうやったらいいねっていうのを理念に持ってやってきているから・・・皆が最大限の力を発揮できるっていうので、理念でやってきました
	メンバーが連携して取り組む意識を持つ	<ul style="list-style-type: none"> ナースは患者の生活とかか人生とかっていうところが一番メイン、医師は合併症予防、栄養士は食事と栄養、それぞれの立場で一番大事にしたいところが違うのでうまく統合できたらいい
	互いに同等のチームメンバーとして認め合う	<ul style="list-style-type: none"> お互いに専門分野の情報を出しあって一人の患者さんのことをディスカッションできる並列した立場 お互いに刺激し合って成長
患者の生活の中の迷いや声をききとり生活の実像を意味づけして示す	糖尿病をもちながら生活する患者の生活をありありと描ける	<ul style="list-style-type: none"> なんでこんな暗い顔しているのかっていうところを皆で考えて少しでもより添えてその人がメッセージを出せるように どういうところが弱くて、どういうところが強みか見てあげられるのはナース
	患者の揺らぎや右往左往にとことん付き合える	<ul style="list-style-type: none"> 本来のところがあって、そこへ近づくために、自分(患者)は どうしていったらいいかっていうふうな、この右往左往につきあうのが私たちっていうふうな感じかな
	患者の表現できない叫びを拾い上げ道筋を立てていく	<ul style="list-style-type: none"> この人は(体の中で)こんなことが起きているからすごいつらいし、それを分かってあげて支えられるようになっていかんらん、患者を責めるんじゃないで患者の言えない叫び、身体の叫びっていうのを自分たちが察知して一生懸命患者さんと一緒に考えて前向きになって
患者の代弁者であることを示す	糖尿病をもちながら生活する患者の考え方や生き方を他職種に発信できる	<ul style="list-style-type: none"> 患者さんの声を聴いて伝えんなんという思い、私はだれよりも聴けるんじゃないかみたいなところがあって言っている 患者のことを分かってほしいと思ってアセスメントの内容を返す、特にお医者さんとか、ちょっと覆したいと思う時は、思いを伝えたいという思いでやっています 糖尿病をもつ“その人”がそのことをするっていうことを伝えたい
	勇気を持って患者を代弁できる	<ul style="list-style-type: none"> 患者が糖尿病をもちながらも健やかに生きていく権利、患者が言えないのを代弁するのは看護師なのかな 患者さんの代弁者っていうのにならないと
看護師の仕事に自信を持ち形あるものにして示す	他職種に的確に伝達するスキルをもつ	<ul style="list-style-type: none"> アセスメントし迅速で分かりやすい言葉で伝える方法っていうのが必要 ポイントとして、これだからこうみたいな形を、核となるものを上手にパーンと言えたらいい ナースとしての自分がどういう考えをもっているか他職種に伝える
	看護のはたらきにより患者が変化したことを他職種に伝える	<ul style="list-style-type: none"> 自分が関わったことで、患者さんにこういうことをやってきたっていう変化をちゃんと伝えていくことで、医師はなるほど、なるほどって信頼してくれる 自分で行った看護、教育とかケアが、患者さんにどんなふうになっているのかっていうケア評価をきちんとすることによって看護師のケアがもっと広がる
専門職として他職種を尊重していることを基盤とした信頼関係を築く	他職種に対し信頼関係を培うことを意図した行動をとる	<ul style="list-style-type: none"> 自分は他の人の顔を見て、いつも自分のしゃべるときも話をするんやけど、やっぱり顔いたら嬉しいから、逆に他の職種が言うときってすごい関心を持って聞こうとしているから、そうそうみたいな顔して聞いてくるんで安心やん
	潤滑油としてチームのバランスを保つ	<ul style="list-style-type: none"> 一職種だけに負担とならぬよう、看護師が役に立てることをアピールする 看護師ってすごいでしょうって言い続けることが理想、そこを分かってもえんかったら、きっと医者は何を委ねていいか分からないから、自分一人で頑張りすぎるやろうなと思って、医師がひとり頑張りすぎると結構大変かなと思うので、私たちこんなしてしまっって言って信頼してもらえように
	他職種と意見が対立したとき譲り合いの線が引ける	<ul style="list-style-type: none"> (医師との) 共有の仕方が、やっぱり期間限定だとかって、何かやってみることで譲り合いができるかっていう線をきちんと引けることやと思うわ・・・もし向こうが言わなかったら、じゃあこんだけではダメですか、こんだけではダメですかっていうようなぐらい食いついていくようになっていうのが、看護師さんの働きになるんだろうね
患者目線に立つチーム作りを意図的に取り組む	患者目線に立ったチームを育成する意識をもつ	<ul style="list-style-type: none"> 患者さんの生活とかの立場でみたいので、患者さんがどうなりたいたか、これから自分がどう生きていきたいのか、今までどういう生き方をしてきたのかっていうところとかを考えたがって意見が看護師の方で出せたらいいのかな 患者さんを置き去りじゃない医療をするためにいわなんんっていうときがあるってことですよね 人の考え方とか、その人の生活ということが置き去りにならんようにしたいと思っている、影響を与えたいという感じ、ナースが一番それを考えていると思うので
	患者の役に立った喜びをメンバーに伝え共有する	<ul style="list-style-type: none"> 意図的に、これが患者さんの何か役に立ったと思うという喜びも共有していけたらいいし・・・意図的にそういう話をして、やってみようと思うような推進力になっていかんといけないと思う モデルがいるからそこを目指すような、こういう看護でこれがよかったということを発信していかないと、そしたら私もやりたいと皆が思うもん、やっぱり盛り上げていかんといけないと思う
他職種の力を信頼し委ねる	他職種の専門的知識や見解を求める	<ul style="list-style-type: none"> 専門的なこと、あーそうや、それって知らんかったわとか、あいまだったわとかってことを気づかされることはしょっちゅうある (医師が) 将来の見通しみたいところで、可能性を言ってくれることで、その人の将来が広がるところは嬉しい
	他職種の成長を認める	<ul style="list-style-type: none"> 栄養士さんは、“そういう生活をどう思ってこういう時間に食べているの？”って、“気をつけて食べているんですか、それともお仕事上仕方なくこんな時間になるんですか”とか・・・栄養士さんが聞くようになってきた
	看護のスキルを他職種に示し委ねる	<ul style="list-style-type: none"> その場面で、食事指導のときに言ったほうが効果的なことってあるので、そこに委ねようかってなるときに(看護の) スキルを委ねる

立ったチーム育成に努めていた。〈患者目線に立ったチームを育成する意識をもつ〉、〈患者の役に立った喜びをメンバーに伝え共有する〉の2つのサブカテゴリーから構成された。

(7) 〈他職種力を信頼し委ねる〉

看護師は、他職種の専門性を信頼し、チーム医療にて育まれ磨き上げられた力を認め、必要時にはその力に委ねようと考えていた。〈他職種の専門的知識や見解を求める〉、〈他職種の成長を認める〉、〈看護のスキルを他職種に示し委ねる〉の3つのサブカテゴリーから構成された。

3. 看護師が自己評価した糖尿病教育スタイル

糖尿病教育スタイル自己評価得点は、3.65～16.83点（平均7.28±4.49点）であった。7名全員が効果的とされる「生活心情がみえているスタイル」と判別された。

考 察

本研究にて明らかになった糖尿病チーム医療における看護師の7つの役割は、糖尿病看護に熟練し生活心情がみえているスタイルの看護師のチーム医療における意識と行動であり心がまえといえる。以下に、看護師が認識している7つの役割の意味、7つの役割と生活心情がみえている教育スタイル、および理想的なチーム医療について考察し、研究の限界と今後の課題について述べる。

1. 7つの役割の意味

1) 〈患者の生命と生活の質を守ることを認め合い専門性を発揮する〉と〈患者目線に立つチーム作りに意図的に取り組む〉について

日本看護協会の看護師の倫理綱領の第1条「看護師は、人間の生命、人間としての尊厳及び権利を尊重する」¹³⁾に掲げられているように、看護職には患者の生命と生活の質を尊重する責務がある。これらを看護師が率先しケアする姿勢を示しているのがこの2つのカテゴリーである。この姿勢が他職種を巻き込み、チームとしての患者の見方を患者目線に変える可能性がある。一般的に、糖尿病では病気の原因は自らの生活習慣の乱れが多いため、本人次第ととらえられやすく、また初期は自覚症状に乏しいため、患者は周囲に助けを求めにくく、周囲も患者を理解しがたいという特徴がある。そのような患者が表現しきれていない思いを看護師は把握し、患者目線でのチーム作りを率先する役割がこれらのカテゴリーによって示された。

2) 〈患者の生活の中の迷いや声をききとり生活の実像を意味づけして示す〉

看護の本質的な機能は、「看護職は、喜び、哀しみ、悩む心を持って、日々生活している対象者そのものに焦点をあわせ、彼は健康上どのようなことを問題にしているのか、また彼自身はそれをどうしたいと考えているのかということに関心を持ち、それをどのように支援するのかということを考えている」¹³⁾とされている。看護師は、人間の総体、すなわち一人の患者の身体・こころ・社会関係の全体であるとともに、過去・現在・未来という時間の流れの全体つまり、その人をまるごととらえ何が問題なのかをアセスメントする。見出されたこのカテゴリーは、糖尿病をもちながら生活することにまつわる困難や苦悩など、患者の心情に着眼し、意図的に耳を傾けなければ見えにくいその人の生活にとっての意味を他職種に示すことをあらわしている。食べること、活動すること、人と付き合うことなどは、生きて生活するために欠かせない、糖尿病コントロールにとっても重要な療養行動である。それらを患者はどのように行っているのか、それはその人の生活にとってどのような意味があり、どのように位置づけられているのかについて、患者の実像をチームとしてより理解できるよう導いていく看護師の役割がこのカテゴリーによって示された。

3) 〈患者の代弁者であることを示す〉

看護が果たす重要な役割の一つはアドボカシー¹³⁾である。上述した患者の実像を他職種に示しチームメンバーに理解されることが、チームとして患者の立場に立ったケアを可能とする。例えば、医師は患者の身体状態や検査データを把握し、その患者の糖尿病治療を選択し指示するが、その治療方法が患者の考え方や生活スタイルに照らし継続できるかどうかを見極めることができるのは、患者を生活者としてケアする看護師である。このカテゴリーでは、看護師は患者の立場に立ち、看護の視点から論理的に根拠を示し患者を代弁する役割として示された。

4) 〈看護師の仕事に自信をもち形あるものにして示す〉

連携・協働に期待される看護の役割のひとつが、患者の心身の状況の情報を提供することとされている³⁾。中でも看護のアセスメントを他職種に提供することが最も重要である。このカテゴリーは、単なる情報提供にとどまらず、看護の視点で解釈し見極めた問題点を看護師の考えとして自信を持って他職種に伝えていく役割である。看護師としての関わり

によって患者がどのように変化したのか意識的に評価をし、その変化を他職種に伝えていくことが重要である。

5) <<専門職として他職種を尊重していることを基盤とした信頼関係を築く>>と<<他職種の力を信頼し委ねる>>

医療チームの連携・協働の成立要件の中に、「職種間のコミュニケーションを密にすること」、「他職種の理解を深め認め合うこと」、「セクショナリズムの排除」などが挙げられている³⁾。このカテゴリーでは、単にメンバー間のコミュニケーションを密にするにとどまらず、他職種を尊重し信頼するという基盤あつての関係や役割委任であることが示された。大局的な視点で他職種とのバランスを考えながら、看護師自身が信頼を得るに値する専門的な判断や発言等、対応できることが重要であると考えられる。

2. 7つの役割と生活心情がみえているスタイル

「生活心情がみえているスタイル」とは、先行研究¹⁴⁾によると、糖尿病をもちながら生活する患者の思いをわかってもらうケアであり、患者が新たに踏み出す力を得ることができる手ごたえを、患者の意識や行動の変化により看護師が感じ取れるという特徴がある。本研究の対象看護師全員が、自己評価により「生活心情がみえているスタイル」と判別された。本結果でも、<<患者目線に立つチーム作り>> <<患者の生命と生活の質を守る>> <<患者の生活の中の迷いや声をききとり生活の実像を意味づけして>> <<患者の代弁者である>>と表現されており、上述した「生活心情がみえているスタイル」の看護師の特徴と一致すると考えられた。したがって、本結果は「生活心情がみえているスタイル」の看護師の特徴を反映したチーム医療における看護師の役割と考えられた。

3. 7つの役割と理想的な糖尿病チーム医療

細田²⁾は、チーム医療において医療者が目指そうとする4要素、「専門性志向」、「患者志向」、「職種構成志向」、「協働志向」について、これらが最大値をとる地点はチーム医療の理想型と述べている。本結果の7つの役割に含まれる文言を4要素に引き当ててみると、<<専門性の発揮>> <<専門職として他職種を尊重>>は「専門性志向」に、<<患者の生命と生活の質をみとめあう>> <<患者の生活の中の迷いや声をききとる>> <<患者の代弁者>> <<患者目線>>は「患者志向」に、<<他職種を尊重>> <<他職種の力を信頼>>は「職種構成志向」に、<<みとめあう>> <<信頼関係>> <<チーム作り>>は「協働志向」に相当すると考

えられる。これらより、本結果で明らかになった看護師の役割は4要素を網羅しているといえた。したがって、看護師がチーム医療においてこれら7つの役割を心がまえとし最大限に力を発揮することによって、理想的な糖尿病チーム医療が推進される可能性が考えられた。

4. 研究の限界と今後の課題

本研究の対象者数は7名と少ないため本結果には一般性があるとはいえない。今後は、対象看護師の数を増やし、この結果を確認していきたいと考えている。

まとめ

糖尿病チーム医療における看護師の7つの役割を経験豊富な看護師の認識から明らかにした。これらの役割は、看護師が看護独自の視点や方法を用いて糖尿病チーム医療を推進させようとしている力といえた。看護師はこれらを心がまえとして意図的に活用することによって、より患者にとってのぞましい糖尿病チーム医療を推進する可能性が示唆された。

謝辞

本研究にご協力いただきました看護師の皆様へ深く感謝申し上げます。本研究は日本学術振興会平成21-24年度科学研究費補助金 基盤研究(C)(課題番号21592746)の助成をうけて実施した研究の一部である。

引用文献

- 1) 秋山正子, 有賀徹, 井上智子, 他: チーム医療の推進について(チーム医療の推進に関する検討会 報告書). 平成22年3月19日 厚生労働省, 2010
- 2) 細田満和子: チーム医療とは何か?. チーム医療論(鷹野和美編著), 医歯薬出版株式会社, pp 1-10, 2006
- 3) 高橋照子編: 看護学原論 看護の本質的理解と創造性を育むために, 南江堂, pp 184-192, 2009
- 4) 日本糖尿病療養指導士認定機構編: 日本糖尿病療養指導士受験ガイドブック2009, メディカルレビュー社, p5, 2009
- 5) 黒澤寿子, 清川宮子: 糖尿病のチーム医療と看護師の役割. Pharma Medica, 25(11): 39-42, 2007
- 6) 多崎恵子, 稲垣美智子, 松井希代子, 他: 糖尿病患者教育に携わっている看護師の実践に対する思い, 金沢大学つるま保健学会誌, 30(2), 203-210, 2007
- 7) 多崎恵子, 稲垣美智子, 松井希代子, 他: 看護師の糖尿病教育におけるロールモデルの存在と実践意欲の実態, 金沢大学つるま保健学会誌, 31(1), 61-69, 2007
- 8) 柳井田恭子, 正木治恵: 修論「糖尿病チームケアにおける看護師の調整行為の構造化」の解説と質的統合法(KJ

- 法)による分析/コメント. 看護研究, 41(2), 111-122, 2008
- 9) 稲垣美智子, 平松知子, 中村直子, 他:糖尿病教育にオープンディカッションを導入したクリティカルパスの効果, 金沢大学医学部保健学科紀要, 24(2): 131-140, 2000
- 10) 八木邦公:オープンディスカッションによる糖尿病チーム医療の実質化 クリティカルパスにオープンディカッションを用いた糖尿病患者教育を通して, 日本糖尿病教育・看護学会誌, 13(1), 50-51, 2009
- 11) Tasaki K, Inagaki M.: Nurses' frame of mind in diabetes education -Teaching styles and their formative processes-. Journal of the Tsuruma Health Science Society. 28(1): 101-111, 2004
- 12) Tasaki K, Inagaki M, Inoue K.: Development of a self-evaluation tool for evaluation of nurse teaching styles in diabetes patient education - Identifying characteristics of teaching in actual practice by self-evaluation -, Journal of Tsuruma Health Science Society, 31(2): 1-14, 2008
- 13) 日本看護協会監修:新版 看護師の基本的責務 定義・概念/基本法/倫理. 日本看護協会出版会, 2009
- 14) 多崎恵子, 稲垣美智子, 早川千絵:糖尿病教育スタイルの違いにみるアセスメント視点の傾向-2名の看護師のアセスメント視点の分析. 金沢大学つるま保健学会誌, 27, 151-154, 2003

Nurses' understanding of their roles within diabetes team-based care : Analysis based on perception by nurses with proficient experience

Keiko Tasaki, Michiko Inagaki, Kiyoko Matsui, Naoko Murakado

Abstract

The objective of the present research was to clarify the roles of nurses who are members of diabetes care teams, on the basis of the nurses' own understanding of these roles, who can become an experience-rich model. Focus-group interviews were carried out, involving seven proficient nurses at four clinical institutions that carry out vigorous team-based care of diabetes, the interviews being followed by qualitative analysis. The outcome was that the following seven roles were identified: (i) ensuring that the patient's life and quality of life are maintained, making full use of one's specialized ability; (ii) listening carefully to the patient, trying to understand the doubts and perplexity in his/her daily life, so as to achieve a meaningful and realistic image of his/her life; (iii) showing that one acts as the patient's spokesperson or ally; (iv) showing that one is confident in one's position as a nurse; (v) building a relationship of trust on the basis of respect for other occupations as areas of specialist expertise; (vi) getting to grips, as planned, with building the team that is in direct contact with the patient; and (vii) trusting the abilities of personnel in other occupational areas, so as to entrust tasks to them. These seven roles can be seen as constituting the position of the nurses within the care team, and, it is suggested that the maximum possible fulfillment of these roles by the nurses within the team may be linked to progress with optimal diabetes team-based care.